

(メッセ海外通信 2012年10→12月号掲載記事)

～世界と乾杯！青島国際ビールまつり～

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
三浦 万季

気温の上昇と共に、おいしさを増すビール。今回はこのビールをテーマにした青島市における最大のイベント、青島国際ビールまつりの様子をお伝えします。

今年で 22 回目となる今回のビールまつりは、1994 年から会場として使用されてきた青島国際ビール城が改装工事中のため、そこから約 1 km 東の青島市ロウ山区の世紀広場ビール城に会場を移し、8 月 11 日から 26 日までの 16 日間開催されました。

ビールまつりは事前の宣伝にも力を入れており、年を追うごとに知名度が上がっています。今回の開催期間中は延べ 396 万人の来場者数となり、全体で前年比 5.04% の伸び、消費されたビールは 1,180 トンだったとのこと。

私が訪れた日も、ビールまつり会場は活気に溢れていました。会場内では青島ビールは言うまでもありませんが、世界 16 カ国、25 のブランドから約 300 種のビールが提供されており、私も会場内に設置された大型テント内でドイツ、フランス、オーストラリアのビールを味わいました。テント内のステージでは国内外から招かれた出演者が歌や踊りを披露し、ビールを飲みながら観客も一緒に歌い踊り、大変な盛り上がりを見せていました。また、書道家がその場で書いた書のオークションが行われ、観客を沸かせていました。残念ながら私は見ることはできませんでしたが、海外から招かれたハワイのフラダンスやブラジルのサンバチーム隊などがパレードを行い、まつりに華を添えたそうです。さらに、会場内には遊園地が併設され、観覧車をはじめとした大型アトラクションが 20 基以上設置されるなど、大人だけでなく子どもも楽しめる会場になっていました。



大型遊具が設置された青島国際ビールまつり会場の様子



まつり会場に設置されたテント内でビールを味わう来場者

大ジョッキでビールを何杯も飲めばトイレに何度も行きたくなるものです。日本でもまつりの会場では、往々にしてトイレは長蛇の列で、中に入れば非常に汚いというのがほとんどです。ここも同じだろうと思いながらトイレに向かったのですが、トイレのスペース、数が思いの外整備されており、並ぶことなくすぐに利用できました。また、トイレ内を掃除するスタッフが常時配置されており、非常に清潔に保たれていました。この様に会場環境の整備に気を遣っていることも、訪れる観光客数を伸ばしている理由の一つと言えるのではないのでしょうか。

期間中、青島市内の宿泊施設稼働率は 98%に達し、また、周辺の観光施設の入場者数も増加したそうです。誰もが愛するビールをテーマにした約 2 週間にわたるこのビールまつりを、市をあげて開催することで、青島市全体の経済が活性化されているように感じました。

中国人は、にぎやかに皆で楽しく過ごすのが大好きです。私も今回初めてビールまつりの会場を訪れ、中国人と一緒にビールを飲み、何度でも来場したくなるような熱気を肌で感じることができました。ビールまつりの効果はまつり期間中だけの一過性のものではなく、青島市が観光レジャー都市であることを来場客に印象付け、再び青島市を訪れたいと思わせる相乗効果を持っているようにも思いました。

皆さま、来年はこの熱気に満ちた青島国際ビールまつりに是非お越しく下さい！